

令和7年度第2回秩父市総合教育会議 議事録

期 日	令和 7 年 10 月 22 日 (水曜日)
時間・場所	15 時～16 時 35 分・秩父市役所本庁舎 庁議室
出席者	<p>清野市長、前野教育長、浅海教育委員、萩原教育委員、土橋教育委員、根岸教育委員 【事務局】総合政策部長、総合政策部次長兼総合政策課長、総合政策課主査 【教委事務局】教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長兼学校指導監、教育委員会事務局次長兼教育総務課長、教育研究所長、学校教育課長 傍聴者 なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶 ○教育長挨拶</p> <p>○議事 (1) 秩父市教育大綱について <u>資料1について総合政策部次長より説明</u></p> <p>(市長) • 事務局から説明について、意見のある方はいるか。</p> <p>(浅海委員) • 全体的に「育てます」「育みます」という表現が混在しているため、統一した方が良いかと感じた。 • 基本理念に「ともに生きる」とあるが、この対象は何なのかわかりづらい。また文頭にあるため唐突な印象を受ける。</p> <p>(萩原委員) • 基本理念についての解説があった方が良い。他自治体の教育大綱では、理念の背景についての説明があるものが多い。 • (1)の一行目に「基礎学力の定着」とあるが、「学力の向上」を入れたほうが良いと思う。「深い学び」という表現がこれを代用しようということであればそれでも良いが、やはり学力の向上は大切なポイントである。 • (2)に「休日の部活動の地域展開を着実に進め」とあるが、昨年文科省が取りまとめた中間報告では、令和8年から13年までを部活動の地域展開における改革実行期間とし、このうち、前期の3年(令和8～10年)で休日の部活動について地域展開を進め、後期の3年(令和11～13年)では休日に限らず平日の部活動についても地域展開を推進する方向性が示された。次期教育大綱は令和11年度までの期間であるため、「休日の」と限定する表記は削除した方が良い。 • また、(2)に部活動の地域展開が記載されているが、これに関連するのは(4)に記載された学校における働き方改革である。この2つが分</p>

	<p>割られているのが果たして良いのか。また、(3)に「保護者と学校・地域が協力しながら」という表記があるため、この項目と一緒にすることも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(4)のタイトルに「適切な学習環境の整備～」とあるが、ICT教育など、教育環境は時代とともにリニューアルしていくことを鑑みると、「新たな学習環境の整備～」とした方が良いのではないか。 ・(5)において、「年齢や立場に関わらず学び続けられるよう、市民に多様な学習機会を提供し～」とあるが、対象が市民であることを明確に示すため、「市民に」という部分を冒頭に持てきた方がよい。また、その後の「あわせて、健康の増進と豊かな心を育むために～」という部分についても、対象が市民であることを明確にするため、「市民の健康増進と～」というように明記してはどうか。 <p>(土橋委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(5)以外の全ての項目に、「子どもたちの」という文言が入っていることから、教育大綱が小中学生以下向けのものという印象が強くなてしまっていると感じる。 <p>(根岸委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(3)の「家庭との連携を大切にし」という文言について、「家庭」についての定義も曖昧であり、また、その後の「保護者と学校・地域が協力しながら」という文言との関係がわかりにくい。 <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員各位の話を聞いて感じたが、この教育大綱は短い文章で内容がとても濃い。そのため、全ての要素が入り切れていない実態があり、違和感を感じるところもある。今回の委員の意見を受けてわかりやすく修正願いたい。 ・総合振興計画との関係についてはどうか。総合振興計画案では保護者・家庭・地域という並びであった。また、「子どもたち」という表記があるが、総合振興計画と統一がとれているのか。 →総合振興計画案における子どもの表記については、こども家庭庁から全てひらがな表記とする旨の通知があったため、ひらがなに統一しているところ。(事務局) <p>■基本理念についての議論■</p> <p>(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・では、各委員の意見について整理していきたい。まず、基本理念について、「ともに」という表現の可否や基本理念の説明を付与するという意見があったがどうか。 <p>(萩原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが仲間と共に協力しながら切磋琢磨し成長していく姿を考えるとき、「ともに」という言葉は大切だと思う。
--	---

(浅海委員)

- ・この萩原委員の意見のような内容を基本理念に説明として追加するといいのではないか。

(事務局)

- ・策定中の総合振興計画の第二章、子育て・教育の部分のキャッチフレーズが「ともに育み学びあい未来に羽ばたくまち」となっており、これとリンクするような形になっている。

(市長)

- ・浅海委員の意見では、萩原委員がおっしゃったような内容の説明を基本理念の説明として入れれば良いのではないか、ということだが、基本理念に説明を付けることは可能か。

(事務局)

- ・可能である。

(市長)

- ・では、そのように修正したい。

■「子ども」の表記についての議論■

(市長)

- ・次に、「子ども」という表現について議論したい。

(土橋委員)

- ・全体的に「子ども」という表記が多いように感じる。(6)における「子どもたちの学びの場において」の部分では、「子どもたち」を削除しても意味が伝わるため、削除してもよいのではないか。

(萩原委員)

- ・他の自治体の教育大綱を見ると、中心に来るのは子どもたちであり、生涯学習や生涯スポーツに関する項目については市民に向けた部分があるという構成だ。

(事務局)

- ・総合振興計画内の子育て教育分野においては、「1. 子育ての充実」、「2. 学校教育の充実」、「3. 生涯教育の充実」という項目立てとなっている。教育大綱の各項目の横に、該当する総合振興計画の項目を付記することで、学校教育なのか生涯教育なのかがはっきりし、総合振興計画との関連性もより明確になると考えるがどうか。

(教育長)

- ・各項目の文章を読むとそれが学校教育についてなのか、生涯教育についてなのかは自然と理解できるので、総合振興計画の項目は付けなく

	<p>ても良いのではないかと感じる。</p> <p>(根岸委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱は必ずしも子どもだけを対象にするものではない。総合振興計画の項目を付記しなくとも、生涯教育の分野ということはわかると思う。 <p>(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、(6)において、「子どもたちの」という表記は削除とのことで、よろしいか。 <p>(委員一同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い。 <p>(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に、「子ども」の表記における漢字使用についてはどうか。 <p>(根岸委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行案のまま、「子」だけを漢字とした「子ども」という表記が良いのではないか。 <p>(萩原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児が読む計画ではないため、ある程度は漢字で表記してはどうか。せめて子どもの「子」くらいは漢字を残してほしいと思う。 <p>(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・では、現行案のまま「子ども」という表記とすることで良いか。 <p>(委員一同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い。
	<p>■ (1)についての議論■</p> <p>(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に、(1)において、基礎学力の定着に加え、「学力の向上」を入れた方が良いという意見についてはいかがか。 <p>(浅海委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「深い学びの実現」が「学力の向上」という意味をある程度包含すると思うので、このままでも良いかと思う。 <p>(萩原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力の向上」と書いた方が、その下の施策につなげやすいという面はあると感じているが、「深い学び」がそれに繋がっていくのであれば、現行案のままでよい。 <p>(教育長)</p>

- ・「学力の向上」を入れるのであれば、「思考力、判断力、表現力などの学力向上を図る」と入れても良いと思う。

(教育長)

- ・「深い学びの実現に取り組み」とあるが、「実現に取り組む」という表現に違和感がある。

(根岸委員)

- ・「基礎学力の定着と、主体的、対話的で深い学びの実現を図り～」としてはどうか。

(教育長)

- ・(1)の3行目に、「児童生徒」という表現があり、ここだけ「子どもたち」という表記ではない。

(萩原委員)

- ・(1)の3行目の「また、児童生徒～」の一文はカットしても良いのではないか。

(根岸委員)

- ・もしくは「児童生徒」だけ削除でも良いのではないか。

(根岸委員)

- ・(1)の1行目に「すべての子どもたち」という表現があるが、行政文書には「すべての子ども」という表現も多くある印象を持っている。この表現に違和感を感じた。

(事務局)

- ・文部科学省の公表文書の中にも「すべての子どもたち」という表記はある。

(市長)

- ・これら意見を受け、短くまとまるよう、事務局で修正願いたい。

■ (2)についての議論 ■

(市長)

- ・(2)の、「休日の部活動の地域展開」という記載は、萩原委員の指摘を受け「休日の」を削除する形でよいか。

(委員一同)

- ・よい。

■ (3)についての議論 ■

(市長)
・(3)の、「家庭との連携を大切に」については、先ほどの議論を踏まえ削除する形で良いか。

(根岸委員)
・削除したうえで、「学校・家庭・地域が連携協力しながら～」、としてはどうか。

(市長)
・そのような形が良いと思う。

■ (4)についての議論 ■

(市長)
・次に、(4)の「適切な学習環境」を「新たな学習環境」とすることについてはどうか。

(委員一同)
・良い。

(市長)
・部活動の地域展開に関する記載位置についてだが、学校運営のあり方は(4)に集約されていると感じるので、このままでも良いと感じるがいかがか。

(委員一同)
・良い。

■総括■

(市長)
・論点となった項目について、一通り議論できたかと思う。教育大綱で書けなかった項目については、その下の施策で記載していくということとなる。
・委員各位との議論で、良い方向に修正出来た思う。

(2) フリースクール等子どもの居場所について 資料2について教育研究所長より説明

(萩原委員)
・9月の市議会定例会でもフリースクールについての質問があり、非常に関心が高いと感じている。
・先日ひまわり教室（市の教育支援センター）を視察したが、多くの先生方が一生懸命取り組んでおられ成果を挙げている。

- ・フリースクールの設置要件は特になく、公営・民間の両方があるが、民間の施設の中には、高額な月謝が必要なものもある。
- ・各フリースクールは、子どもの居場所づくりのため、学習活動、教育相談、体験活動を自由に実施しているが、民間の施設をいたずらに増やしていくことは、正規の学校教育にマイナスの影響が出るのではないかと懸念している。
- ・文部科学省では、フリースクールが正規の学校と正式に連携が取れているかや、在籍校の校長がフリースクールでの活動を認めているかチェックするべきという指針を示してはいるが、実質的にはその運営は自由となっていると思う。
- ・他自治体の先行例として、鎌倉市においてはフリースクールに対する施設認定制度があり、認定施設に通う児童生徒に補助金を支給している。市の認定を通じ、フリースクールへの一定のチェック機能が働いている。
- ・このような認定制度がないままフリースクールが多く作られ、本来学校に行くべき子ども達の多くがフリースクールに行ってしまうような事態は避けなければならない。
- ・教育委員会において先行事例を参考に検討していただいた方が良いのではないか。

(根岸委員)

- ・学校訪問で自立支援学級の取組みを何度か拝見したが、児童生徒に合わせた細やかな指導が行われている。行政による不登校対応機関の設置はありがたいと思う。
- ・一方で、不登校の児童生徒をビジネスの対象にしてはならないと思う。義務教育の期間は、公的な機関でサポートしていくべきである。資料②の最下段にある要件④「学習内容等が教育課程に照らし適切であると判断できること」、という判断基準は、ビジネスの世界では確保される保証はない。

(土橋委員)

- ・フリースクール自体は悪くはないと思う。子どもの居場所として、何時間でもいてよい場所があるというのは大事なことである。
- ・不登校の児童生徒が無理なく行けて楽しめるよう行政の機関は、利用者からも助かっているという声を聞く。送迎等の負担を考えるとなるべく近くにそのような施設があるのは大切なことだと思う。

(浅海委員)

- ・フリースクールにも、居場所を重視するものや勉強を重視するものがあり、その形態はさまざまである。これを踏まえて、学校が関係を持っていくことが必要と考える。
- ・市内に元校長先生が設立したフリースクールがあるが、利用料も安く設定し、信念を持って子どもに向き合い運営していると思う。
- ・このようなボランティアのような形で運営しているフリースクールに対しては、市から支援があっても良いのではないか。

(萩原委員)

- ・フリースクールは、本来学校への復帰を目的とするものではなく、子どもが安心して過ごせる居場所であることが目的であり、最終的には子どもの自立につなげていく施設とされているはずだ。近年、この目的から逸脱してきているような印象を受ける。
- ・民間のフリースクールに関する情報提供や相談については、学校や教育委員会が適切に介入し橋渡しをしていくことが必要ではないか。
- ・現行、フリースクールに生徒があふれているような状態ではないので、当面はそのままで様子を見ていくということで良いのではないかと思う。

(市長)

- ・時間となったので、ここで議論を終了とする。

○閉会

以上